

		溝ノ口の町のできごと	溝ノ口の関係者と事象	外部からみた溝ノ口
永徳2年	1382年	『頼印大僧正行状絵巻』に「鶴岡八幡宮修理料所 溝之口郷」とある		
明王5年	1496年	天台宗の本立寺が日蓮宗に改宗し、寺号を宗隆寺とする		
永禄2年	1559年	『小田原所領役帳』「海保新左衛門 稲毛 溝之口」とある		
慶長16年	1611年	二ヶ領用水が竣工し、村内を流れる		
寛永18年	1641年	二子塚付近から大山街道沿いの現在地に村民と共に光明寺を遷座する		
寛永19年	1642年		溝口旅籠亀屋が創業する	
慶安3年	1650年		人形店甲州屋が創業する	
寛文年間	1661～73年		灰吹屋が創業する	
寛文9年	1669年	溝口村が矢倉沢往還の宿駅(継立村)に指定。溝口村は年番年寄が継立を管掌		
数年後		二子村が継立村に指定。二子村では年寄大貫権之丞が問屋役を兼務		
延宝9年	1681年	二子村の助郷村に久地、諏訪河原、久本、末長の四村が指定		
元禄11年	1698年		二子亀屋の本館が建つ	
享保元年	1716年	溝口村の助郷村に北見方、上作延、下作延の三村が指定		
享保3年頃	1718年	岡 道栄(初代)が医院を開業		
明和8年	1771年		三代目仁兵衛が溝口で灰吹屋薬種店を	
天明8年	1788年	二子の渡しが二子村と瀬田村の両村で行うよう改められる		
寛政10年	1798年	太田美啓・道一親子が医業を下作延村に		
寛政12年頃	1800年		稲毛屋上田家で醤油醸造を始める。稲毛屋安左衛門醤油屋	
文化3年	1806年	片町交差点に道祖神・道標(神奈川道へ)が建つ	稲毛屋上田家で醤油醸造が軌道に乗る	
文化5年・6年	1808～09年			大田南畝が『調布日記』を書き、多摩川両岸の村が記される
文化11年	1814年	太田良海道一が医院を開業		
文政4年	1821年7月6日	「溝口水騒動」が起こる		
文政10年	1827年	溝口寄場組合村ができ、溝口に組合役所が置かれる		
文政11年	1828年			『新編武蔵風土記稿』が著す
文政12年	1829年	大山街道と八王子道とが交差する角地に「道標」が建つ		
天保元年	1830年	灰吹屋三代目玉川老人亭宝永(鈴木仁兵衛)が芭蕉句碑を二子溝口境に建立(現在は七面山にある)	芭蕉句碑は二子石匠小俣松五郎が刻む	
天保元年	1830年	村田三右衛門敬斎の敬斎塾ができる		
天保2年	1831年			渡辺華山が『游相日記』で大山街道を記す
天保12年	1841年	二子の渡しの運営について、二子村渡守市郎兵衛と瀬田村請負人五郎次の間で文書が取り交わされる		
天保14年	1843年	多摩川が将軍家専用の献上鮎の「御留川」に指定される		
弘化3年	1846年		石工内藤留五郎生れる	
嘉永3年	1850年		林喜楽が生れる	
安政2年	1855年	簡易水道井戸組合を結成。翌年に赤城神社境内に水神社と水道組合記念碑を建立		
慶応2年	1866年	石工内藤留五郎(慶雲)が溝口674で創業		
明治3年	1871年12月	太田資啓医師は太政官令と神奈川県令の命により、溝口村ほか59カ村に種痘の予防接種を行う		
明治5年	1872年	溝口郵便取扱所(溝口1212番地)が開設す		
明治6年	1873年	宗隆寺本堂を仮校舎に溝口学舎が誕生す		
明治7年	1874年			大町桂月が『泉声録』で「久地梅林」「二子紀行」に記す
明治8年	1875年		太田東海資敬腸チフスで死亡(47才)	
明治9年	1876年			漢学者三島中洲の『游玉川記』に亀亭(二子亀屋)とある
明治12年	1879年		上田忠一郎は神奈川県議会議員に選出される	
明治14年	1881年		溝口桜鶴楼(梅鶴)で橘樹郡親睦会を旗揚げする	
明治16年	1883年6月15日		醤油屋稲毛屋が廃業する	
明治20年	1887年2月23日		大貫雪之助が橘樹郡二子村256番地に生まれる	
明治22年	1889年3月		大貫カノが東京市赤坂区青山南町(南青山2-23-5)の大和屋別邸で生まれる。4歳の頃から病弱のため二子に移る	
明治22年	1889年4月1日	高津村が誕生する(初代村長 岡重孝)		
明治27年	1894年		濱田象二(庄司)が母の実家太田家で生まれる。その後父の実家菓子大和屋で林喜楽の労で、溝口神社の幟に勝海舟が筆を染める	
明治28年	1895年			
明治30年	1898年	円福寺住職鈴木孝順が「松柏林塾」を開く		
明治31年	1899年5月10日	神奈川県農工銀行高津支店が溝口672番地で営業を開始		国木田独歩が『武蔵野』『忘れえぬ人々』を『国民之友』に発表
明治32年	1900年		大貫雪之助は尋常小学校卒業後、中原村下小田中の私塾「時習学校」に学ぶ	

明治32年	1900年4月8日	合資会社高津銀行を高津村溝口32番地に開業		
明治35年	1902年		大貫雪之助府立三中(現小石川高校)に入学。9月に一中に転校。文京区指ヶ谷町に下宿。跡見寮にいたかの子が同居。	
明治35年	1902年		上田久七、溝ノ口に生まれる	国木田独歩の「凡人の伝」に柳田国男は絶賛する
明治41年	1908年3月	溝口と二子の一部に電力供給が行われる。		谷崎潤一郎は二子大貫家に逗留、明川(雪之助)と徹底的な討論をする。明治43年11月発表の『刺青』はこの討論がもととなる
明治41年				国木田独歩死亡する
明治43年			大貫雪之助と初子が結婚する	
明治43年	1910年8月10日	関東一面泥の海、稀有の洪水「朝日新聞」	大貫かの子と岡本一平が結婚する	
明治44年	1911年2月26日		岡本太郎、二子の実家で誕生	
明治44年	1911年9月27日	高津村の一部に送電され、電灯がつく		
大正2年	1913年4月		濱田庄司は東京高等工業窯業科(東京工業大学の前身)で板谷波山の指導を受け、以後師として仰ぐ	
大正2年	1913年11月27日		大貫雪之助、丹毒により死亡する	葬儀参列者:島崎藤村、木村荘太、谷崎潤一郎、後藤末雄
大正2年			初子は弟喜久三の妻として大貫家を守る	
大正3年	1914年	大陸天社が二子神明社に合祀される		
大正3年	1914年	津田病院開業		
大正5年	1916年			谷崎潤一郎雑誌『新小説』に『亡友』に大隈玉泉(大貫雪之助)を発表
大正6年	1917年			田山花袋、「亀屋」に泊まる。「多摩川の右岸」『東京郊外 一日の行楽』
大正7年	1918年	川崎新道(府中県道)の拡幅工事が行われ		
大正8年	1919年	「つるや自動車」が溝口～川崎間にバスを運行する		
大正9年	1920年	二子新堤防が完成し、河原の店などが移転する		
大正10年	1921年		大貫医院を開業する	
大正12年	1923年4月			随筆社主催「玉川遊覧会」一行は二子の渡しを渡り、二子の亀屋で会合。田山花袋ほか文士22名が参加
大正14年	1925年7月14日	二子橋が架かる(相模原陸軍演習場への輸送のため)	内藤留五郎(初代慶雲)が死亡する(79歳)	
大正15年	1926年		高津村青年団溝ノ口演劇部旗揚げ公演、上田久七作「橋」など	田山花袋『東京近郊一日の行楽』に「多摩川の右岸」で溝の口周辺をとりあげる
昭和2年	1927年	玉川電気鉄道玉電溝口線、渋谷―溝口間が全線開通する		
昭和2年	1927年	南武鉄道が開通し、武蔵溝ノ口駅が開業		
昭和4年	1929年		岡本かの子の宗教的著書『散華集』を刊行。題字は坪内逍遙	
昭和5年	1930年		溝ノ口を中心に川崎、横浜、相模地区の青年が糾合し、詩歌俳句誌『あけぼの』を発行、毎月の勉強会と春秋には俳句大会を開く	「神奈川県橘樹郡宮前村あけぼの会」のメンバーに佐藤惣之助・小倉緑村・佐野化芳・大屋重栄・荻島朗山・飯田九一・畑耕一・川島梅雨・並木秋人・乾直恵・岡本かの子が二子亀屋で開催
昭和7年	1932年	川浪医院開業		
昭和7年	1932年4月30日	高津町営火葬場の錦花荘が業務を開始		
昭和9年	1934年7月23日	2月、内務省は「多摩川砂利採掘取締法」を実施、2年後に全面禁止した。以後、陸掘りが盛んに行われる	「国木田独歩碑」の除幕式が行われる。揮毫島崎藤村。独歩未亡人治子、次男佐土哲二、次女みどり、孫厚夫、二子荻島朗山、土橋小倉緑村、中村星湖、佐藤惣之助、並木秋人、飯田九一など	10月2日、藤村夫妻を迎え、名月の多摩川にて鮎漁。「独歩碑記念舟遊ぶ」藤村年譜
昭和11年	1936年		岡本かの子の処女作「鶴は病みゆ」を発表。モデルは芥川龍之介の自殺	日本民藝館ができ濱田庄司は理事となる
昭和12年	1937年4月	高津町が川崎市と合併	岡本かの子の短編小説『川』を発表	
昭和12年	1937年	二ヶ領用水(川崎堀)が改修され、現在の流れとなる	『中央公論』10月号に『金魚撩乱』を発表	
昭和12年	1937年	この頃から工業化がはじまる。昭和12年末京衝器溝口工場(久本)、昭和13年八洲化学工業(二子)、三豊製作所溝口工場(坂戸)、日本光学川崎製作所川崎工場(溝口・久本)、日本ヒューム管川崎工場(下作延)など		
昭和13年	1938年	二子亀屋が廃業する		詩人西脇順三郎、百田宗治、田中冬二、乾直恵が二子亀屋に集う。西脇の「旅人かえらず」に記す
昭和13年	1938年12月			雪之助27回忌法要参列者:鈴子(雪之助長女)、喜久三、谷崎潤一郎、木村荘太、後藤末雄、和辻哲郎
昭和14年	1939年		岡本かの子が死亡する	
昭和17年	1942年11月	東部第62部隊(東京歩兵第101連隊)が溝口・馬絹の地に宿営する		
昭和18年	1943年	目黒蒲田電鉄の二子線が溝口まで乗り入れる		
昭和19年	1944年	南武鉄道が開通し、武蔵溝ノ口駅が開業する国有化され、南武線となる		
昭和20年	1945年5月27日	大山街道沿いの建物が「強制疎開」として撤去された		
昭和21年	1946年11月27日		大貫喜久三(大貫病院創業者)が死亡する。生前に『杏林蟲語』を著す	
昭和22年	1947年	溝口駅に通じる新道ができ、溝口亀屋前十字路へ通じる。平瀬川に架かる橋が入		

昭和24年	1949年春			棟方志功『岡本かの子文学碑』と改題』を彫る。昭和27年国際版画展で優秀賞を受賞
昭和24・25年頃			内藤双柿庵に濱田庄司、棟方志功、久保田万太郎、安住敦が頻繁に出入りする	
昭和25年	1950年	橘屋青果市場として独立		
昭和28年	1953年			棟方志功・柳宗悦・バーナード・リーチが濱田庄司の祖父久三の墓参のため菩提寺の宗隆寺を訪れる
昭和29年	1954年	内藤石材店が廃業する		高津公民館で民芸講演を内藤慶三が主催し、柳宗悦、田中豊太郎、式場隆三郎、河井寛次郎、濱田庄司、棟方志功、バーナード・リーチが講演
昭和30年	1955年		濱田庄司が人間国宝第一号を受賞(民芸陶器)	
昭和36年	1961年	橘屋青果市場は二子に川崎市営青果市場ができ移転。		
昭和37年	1962年		二子神社境内に「岡本かの子文学碑」が建つ	亀井勝一郎、伊藤整、川端康成、吉屋信子らが出席
昭和43年	1968年		濱田庄司が文化勲章を受章	
昭和47年	1972年	川崎市が区政を施行し、高津区となる		
昭和49年	1974年	新二子橋が完成する。国道246号線立体化になる。		
昭和53年	1978年		濱田庄司は益子町で死亡。本葬は溝口で行い、宗隆寺の家族の墓に埋葬される	
昭和57年	1982年	高津区が分割して、宮前区ができる		
平成元年	1989年2月		『岡本かの子の世界』展、川崎市市民ミュージアムで開催	
平成13年	2001年10月		「国木田独歩碑」が高津図書館前に移転	
平成20年	2008年10月4日～11月30日		「人間国宝 濱田庄司展」川崎市市民ミュージアムで開催	